

令和2年度

保育所の自己評価

社会福祉法人さつき会

不動さつき保育園

【評価対象期間】

令和2年4月1日～令和3年2月29日

【評価責任者】

東京都目黒区下目黒5-18-4 不動児童館2階

園長 中村 希美

保育所の自己評価

令和2年度

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。当園では、このことに基づき検討し、保育園（組織）としての自己評価について、評価の項目、視点方法および評価結果の示し方等について標準的な様式として作成しました。

当園は、「保育士の保育内容等の自己評価」を踏まえ、全保育士で園を評価及びこれに基づく改善を行うという一連の取り組みにより保育の質の向上を図ります。

保育所における自己評価の結果

- A: たいへんよい
- B: よい
- C: 一部検討を要する
- D: 改善を要する

◎ 保育の計画の編成と実施にかんする評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育方針	☆家庭のように安心し、ゆったりとくつろげる環境の下、子どもの「ありのままの姿」を受け止め丁寧な言葉かけや援助を行います。これらにより、子どもの様々な要求を満たし生命の保持及び情緒の安定を図ります。一人ひとりの育ちの道筋に沿って保育が行われるよう発達過程や興味・関心を慎重に見極め、子どもが主体的に行動していける「待つことのできる保育」「刺激を与えられる事の出来る環境」を重視します。	/				(2)掲示をしていなかった為、令和3年度より玄関ホールに掲示をする。その他の掲示物も見やすいように掲示の仕方を工夫する。 (3)入園時の説明会にて園のしおりを配布するとともに、説明をしている。入園・進級お祝いの園長挨拶の際にも保育方針や保育目標については話をするようにしているが、園だより等でも日頃から触れていくようにし、より周知していけるよう努力する。
	(1)保育方針を年度初めに職員で確認している	○				
	(2)職員や保護者の見やすい場所に掲示している				○	
	(3)保護者に配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している		○			
保育目標	☆にこにこ…よく食べ、よく遊び、よく眠り、よく笑う子ども きらきら…嬉しい、楽しい、大好きを表現できる子ども わくわく…面白そう、やってみたいを発見できる子ども	/				子どもらしく、伸び伸びと生活し、興味関心を広げ自己を表現していけるような保育を心掛けた。日頃から、保育目標に向かって刺激を与えていける保育内容の検討を行っている。 (2)全体で保育について話し合ったり、決めたりすることができ、共通の理解・認識を持つことができた。
	(1)保育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	○				
	(2)保育目標は、前年度の反省を活かし、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	○				
全体的な計画	(1)全体的な計画の作成には職員が参加している	○				(2)地域の実態を知る為、おひさまタイムに参加してもらい、相談や話を聞く時間を設けていく。
	(2)地域の実態や保育者の意向などを考慮して全体的な計画を作成している		○			
指導計画	(1)各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画になっているか	○				クラス会議で一人ひとりの特性に応じた配慮をするよう話し合いを持てているので、会議の内容が指導計画に反映されるよう、順序を考えていく。 (2)月案作成と共に玩具や環境を見直し、担任同士や全体で話し合いを行うことで、手作り玩具を増やしていきたい。
	(2)環境構成や素材・用具を適切にいかした指導計画になっているか	○				
	(3)保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定している	○				

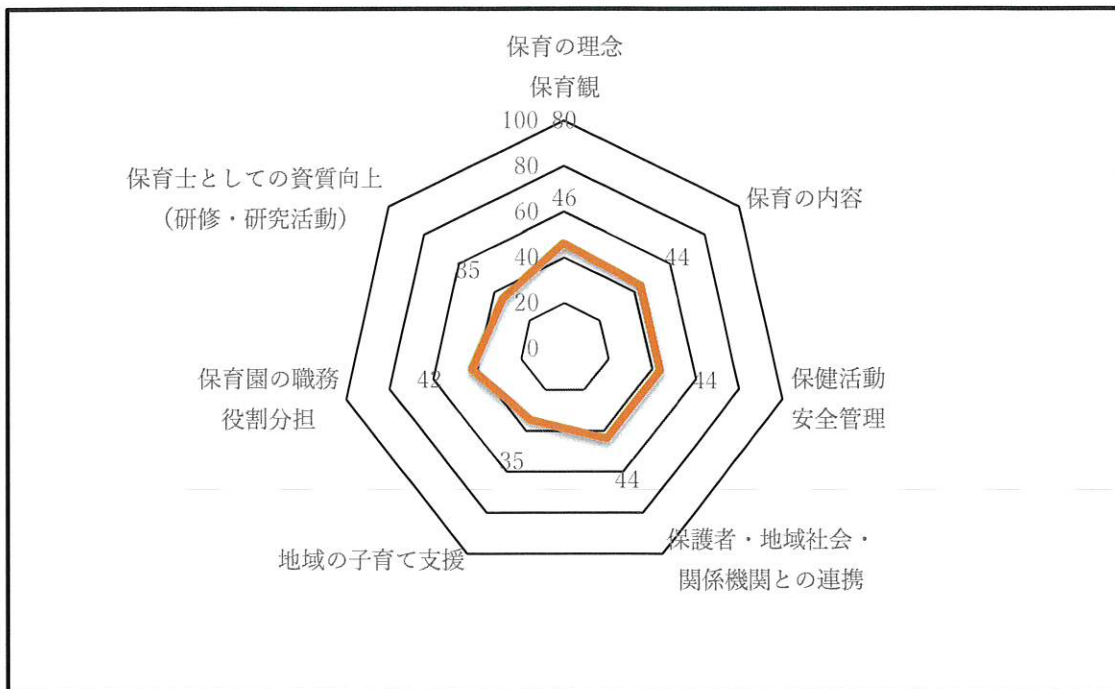
項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育内容	(1)子ども一人ひとりを理解し、受容しようと努めている	○				<p>コロナ禍であったが、全体で話をしながら、年齢毎にできる活動や方法を考え、様々な活動を取り入れることができた。</p> <p>(4)地域社会（消防署・交番・児童館・近隣保育園）との交流を日々図っていく。</p> <p>(5)クラス内だけでなく、他クラスとの関わりを意図的に作っていくことで、異年齢の関わりを大事にできた。</p>
	(2)基本的な生活習慣が身につけられるような活動内容及び環境が整備されている	○				
	(3)様々な表現活動が体験できるように配慮している		○			
	(4)身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている		○			
	(5)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している	○				
保育・行事	(1)一日の流れ（デイリープログラム）は現行でよいか	○				<p>人間の自然な生活リズムを大切にしたい過ごし方が出来ている。</p> <p>(2)コロナ禍で、開催できない行事があったが、保育士体験に参加して下さる家庭が多く、子どもの姿を見て頂けたことはよかった。</p> <p>(5)個人面談や降園時間等に沢山話しをするよう心がけ、意見を取り入れていきたい。</p>
	(2)行事の種類や回数は適切か	○				
	(3)行事のねらいを計画や実施に十分いかしているか		○			
	(4)PDCA サイクル（計画・実施・評価・改善）の体制がとられているか	○				
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか		○			
健康管理	(1)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成の為、「園だより」「保健だより」などで情報を保護者に提供しているか	○				<p>(1)保健だよりを作成し、定期的に発行することができた。</p> <p>(2)関係機関との連携を日頃から確認していく。</p> <p>「うつぶせね」が癖になっている子どもがいるので、家庭での協力を再度伝えていく。</p>
	(2)乳児の安全確保のために家庭・地域社会・関係機関と連携を図っているか		○			
	(3)感染症などを予防するマニュアルがあり、職員に周知し実行している	○				
食事	(1)食育を通して子ども達が楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	○				<p>献立会議で日々の食事で大切にしたいことを話し合え、食育が深まった。</p> <p>コロナ禍でクッキングは出来なかったが、日頃の給食や畑の活動では様々な食材に触れることが出来た。</p> <p>(2・3)については、本年度に関して該当なし。</p>
	(2)アレルギー疾患などを持つ子どもに対し主治医からの支持を得て適切な対応をおこなっている					
	(3)アレルギー疾患などを持つ子どもへの食事の提供は、間違えないよう個別のトレーなどで取り分け、調理師・保育士間で声出し確認をしている					
環境	(1)園内の掃除がなされ、清潔に保たれ子どもが心地よく過ごせるように配慮している	○				<p>(3)季節に合った遊びの展開は十分に行えているが、より季節を感じられるような保育室内の壁面等を工夫していく。</p>
	(2)園内外の衛生面・安全面に配慮している	○				
	(3)園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている		○			

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
人権尊重	(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮している	○				(2)英語での対応に戸惑う事はあったが、ジェスチャーや片言であっても一生懸命に伝え、積極的にコミュニケーションを図った。両親ともに外国の方という家庭はなかったので、大事な事は電話等でもきちんと
	(2) 日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるように配慮している	○				
	(3) 性差への先入観による固定的な概念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	○				
子育て支援	(1) 送迎の際の対話や連絡事項への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設け個人面談をおこなっている	○				(1) コロナ禍で保護者の方は保育室に入れない為、降園時には積極的にお話をするよう全職員が心がけた。また、個人面談でも日頃の子どもの様子を伝え合うことができた。来年度は年間計画に個人面談期間を組み込み、定期的に行えるようにする。
	(2) 家庭の状況や保護者との情報交換が必要に応じて、関係職員に周知されている	○				
	(3) 保育士は日常から保護者や子どもの様子に注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	○				
	(4) あらかじめ年間行事の目標を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	○				
地域との連携	(1) 地域の関係機関などと連携を深めるようにしている（育児相談などに際して、専門機関と相談や連携が出来ている）		○			(2) 自分たちからアプローチし、積極的に参加していく。 (4) コロナ禍であった為、例年行っている、不動保育園やゆりりん下目黒保育園との交流会がほとんどできなかった。
	(2) 地域のイベントやまつりに参加し、地域の人々と交流できる機会を設けている				○	
	(3) ボランティア・職場体験等の人々を積極的に受け入れている	○				
	(4) 乳児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流している			○		
開かれた保育所づくり	(1) 地域の子育て支援として、保育室等を開放しているか	○				(1) おひさまタイムは1日1家庭に限定して行った。 (2) 少しだが、公園で出会った家庭と一緒に遊ぶ機会があった。散歩先で出会った親子と一緒に遊ぶという機会を積極的に取れるようにしていった。 (4) 情報発信については、効果的な方法を考えていく。
	(2) 地域の子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことが出来るような場の設定を行っている	○				
	(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか		○			
	(4) ホームページ等で施設の情報を発信しているか			○		
危機管理	(1) 避難訓練・交通安全指導を行い、計画に基づいて適切に実施している	○				(1) 訓練の反省を細かく行ったり、声掛けを決めたりしたことで、職員同士の結束が強くなり判断能力が上がった。 道路を渡る際の声掛けを統一したことで、子どもも身につけてきている。
	(2) 緊急時、慌てずに対応できるよう医療機関の連絡先を表示している	○				
	(3) 乳児の安全を図るため、家庭・地域社会・関係機関と連携を図っている	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
守秘義務	(1) 子どもの個別記録は、個人情報保護法に基づき管理している	○				一人ひとりが個人情報の取扱に注意し、責任を持って行動している。秘密の保持についての意識は全職員が持っている。
	(2) 保育業務で知りえた子どもの家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている	○				
園内外の研修	(1) 各研修会・講習会への参加体制の充実を図っている	○				コロナ禍で外部研修は減ってしまったが、園内研修で学んだことや、会議での意見交換した事を日頃の保育に反映できた。
	(2) 研修の成果を日常の保育に活かし、乳児の育成に反映させている	○				
組織運営	(1) 能動的・合理的な運営組織になっている	○				(4) 年間で会議の司会を決めたことで責任を持って取り組めた。 (5) 職員一人ひとりが自分の立場や役割を理解し、熱心に取り組んでいるが、よりよい保育園運営の為に、「もっとできることがある」という事を意識する。
	(2) 職員の配置は適材・適所である	○				
	(3) 係りや仕事の分担・役割は適切である	○				
	(4) 各種会議を適切かつ効率的に進めている	○				
	(5) 職員相互がそれぞれに全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく保育園の運営にかかわっている		○			
年齢別・クラス運営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	○				(1・2) 個人差が大きかったり、その年によっても子どもの姿が違ったりするので、日々の振り返りを大事にしている。 (3) 本年は「たてわり保育の日」を設けなかったが、普段から異年齢で関わる機会があり、自然な交流が図れた。
	(2) 年齢別・クラス目標は、乳児の実態に即して設定している	○				
	(3) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている	○				
	(4) 評価、資料(諸記録)を集積している	○				
保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス運営に活かされるような具体的な保健対策を講じている		○			(1) その時期に何が大切で何を取り入れていくかを担任間で深く考え、進め方を検討する。来年度はキャリアアップ研修を受けた職員が専門分野として活動を広げていく。
	(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している	○				
	(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発をおこなっている	○				
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的におこなっている	○				(2) 手作り玩具等が増えてきた反面、物置の奥にしまわれてしまったり、忘れ去られてしまったりするので、活用しやすいよう工夫する。 (4) お知らせボードの活用の仕方を考え、見やすく分かりやすく掲示していく。
	(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整備・保管している		○			
	(3) 不審者等に対応する周到的配慮を行っている	○				
	(4) 掲示板・掲示場所等を適切かつ効果的に活用している			○		
外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映している				○	開園以来、第三者評価を実施していない為、5年に1回は実施できるよう計画をしていく。令和3年度受診する。
	(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映している					

保育士自己評価 平均の分析グラフ

実施日 令和2年 11月



このグラフから、課題や特色を見つけ自己評価結果の活用にする

項目	平均点
1 保育の理念 保育観	46
2 保育の内容	44
3 保健活動・安全管理	44
4 保護者・地域社会・関係機関との連携	44
5 地域の子育て支援	35
6 保育園の職務・役割分担	42
7 保育士としての資質向上 (研修・研究活動)	35

保育士が行った「保育内容の自己評価」の平均は41%で、全体的に保育内容の知識と実践する保育力の向上が課題である。昨年度の重点課題となった「地域の子育て支援」、「保育士としての資質向上」は少しではあるが上昇傾向にある。引き続き、会議や園内研修での共通理解を深め、一丸となってより良い保育園作りに努めていく。また、保育士として自信が持てるよう、1つ1つの行動の意味を理解して保育にあたるよう保育士同士での意見交換や相談をし、互いを認め合う機会を増やしていくことで、資質向上を図っていく。保育内容の振り返りは、PDCAの流れに沿って自分の保育を自分で振り返ることが習慣となるようにし、クラス会議を重視していく。

保育士は、資質向上を図るために自己評価を行い、課題等を踏まえ職務内容に応じた専門性を高める為、必要な知識及び技術の習得に努めなければならない。と保育所保育指針にうたわれています。令和2年度に行った自己評価を分析し、職員の専門性を高め、資質向上に努めていきたいと考えております。